

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

ヤオ族文化研究の拠点を目指して

廣田 律子

現在、経営学部内に設立している神奈川大学プロジェクト研究所ヤオ族文化研究所の活動について報告を行ないたい。

中国湖南省藍山県に居住する過山系ヤオ族に伝承される通過儀礼の度戒儀礼が2008年に実施され、儀礼の全行程にわたって読誦される儀礼文献及び作成され使用される儀礼文書の収集記録を行ない、同時に儀礼内容との対応関係を明確に記録化した。今回の調査で収集された文字資料(伝統文書)は、儀礼の各場面で作成され神々に届けられる文書、12名の受礼者への資格授与にかかわる文書、儀礼進行中に読誦される文献等数百件に上る。儀礼を執り行なう宗教職能者によって代々大切に伝承されてきた手書きの文献はもとより、儀礼用に手書きで作成され、儀礼中燃やされてしまった文書等貴重な資料を記録に残すことができた。記録できた度戒儀礼の実践との関係を明確にしつつヤオ族の宗教儀礼知識の総体を立体的に保存することを目指し、儀礼内で使用された文献及び文書の写真(影印)、翻字、現代語訳を列記し、収集した多様なデータのデータベース化を図りウェブサイト (<http://www.yaoken.org/>) 及び出版物の形で順次公開を進めた。出版物は『瑶族文化研究所通訊』1号～3号等である。さらに現地宗教職能者からの依頼により、儀礼で使用され剥落の激しい神画のデジタルデータによる復元・複製作業を随時進めている。

収集した儀礼文献・文書の解説分析を進め、道教儀礼やその他の地域の民間祭祀儀礼等との比較を進め、さらに歴史的な文献学的儀礼研究と接合を行ない、儀礼史の上に体系的に位置付けを試みたが、これは現代に至る道教儀礼の歴史的変遷をヤオ族の儀礼に通観することに繋がり、学術的にも意義は大きいといえる。

さらにヤオ族の文献を収集している国内外の諸

機関(南山大学人類学博物館・バイエルン州立図書館、オックスフォード大学ボードリアン図書館)で資料の閲覧収集を進め、藍山県の文献と複数の異本と対校をし、比較を行なうことで藍山県の文献の個性と普遍性を明確にすることができた。

2009年8月中国長沙において「第1回湖南瑶族伝統文化研討会」を開催し、地元研究者との研究交流及び地元への還元を図った。2010年に11月神奈川大学で「ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム」を開催し、現地の宗教職能者2名、共同研究者中国1名、ドイツ1名を招聘し、研究成果を公開し、歴史学、文化人類学、地理学、言語学等多分野の研究者間での活発な研究交流を図った。さらに2011年1月東京大学で『ラオス北部のランテンヤオ族民間伝統文書の保存・集成・解題』プロジェクト・神奈川大学ヤオ族文化研究所共同研究会」を開催しラオスのヤオ族研究者との研究交流をさらに深めた。

またヤオ族は中国ばかりでなくタイをはじめとする東南アジアやアメリカ等世界各地に分散して居住しており、この儀礼文献・文書の公開を通じてヤオ族自身自民族の文化を再発見し、再評価することに繋がった。本研究所の活動に呼応して、昨年新たに湖南省瑶族文化研究センターが設立されたほか、度戒儀礼の資料の提供を望んでいるタイのヤオ族と交流が実現する運びであり、ヤオ族の儀礼伝承にさらなる展開が予想される。急速な社会の変化にともない継承の危機にある儀礼と儀礼文献・文書を収集記録保存することは、ヤオ族の社会に留まらず人類文化の保存継承の観点からもその意義は大きい。

今後もヤオ族文化研究所を国際的な拠点として機能させ、学術面でも国際的な発信を続けていくことが期待されているが、今年神奈川大学国際交流事業計画が承認され、夏に現地で「ヤオ族度戒と道教・法教の伝度をめぐらる問題」をテーマに国際シンポジウムを開催する予定である。

(所員/ひろた・りつこ)

国際経営研究所主催 シンポジウム開催さる 統一論題：地域企業—住民—子供たち—大学を結 ぶ集合智の試み

さる11月12日(土)の終日、平塚商工会議所3階大ホールで午前の部、午後の部の二部構成でシンポジウムが開催された。午前の部は小中高校生による「わたしたちの提案」である。午後の部は、「モノづくり、コトづくり、そして智慧興し」の統一論題のもとで、講演とシンポジウムが実施された。以下当日の概要報告および話題提供である。

午前の部の「わたしたちの提案」は、小学生部門では最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3本が、中学生部門では最優秀1、優秀賞2、奨励賞1、努力賞1本が、高校生部門では、優秀賞1本がそれぞれ選ばれた。出席者による発表後、表彰と全体講評が行われた。

テーマの上位三位までは、自然環境関連、地域コミュニケーション関連、商店街関連が占めた。特に印象的だったのは、大人のマナーの悪さ、自然破壊行動や他人への無関心さ、公共性の欠如など、“社会”問題を子供たちの目線で指摘していることであった。単発ではなく継続的にこの問題をとりあげ、何らかの具体的な行動として展開していくことの必要性を強く感じた。

来年度に引き継ぐために発表者および当日付き添いで参加されたご父母たちとの昼食会を催した。応募段階での舞台裏まで探ることができた。貴重な情報を共有することができた。平塚市の教育委員会委員として参加している同僚教授や作文審査に加わった教授からも胸が熱くなるメッセージをいただいた。この場をお借りしてお礼を申しあげたい。

午後の部の講演会、シンポジウムでは、大学人2名、企業人2名、合計4名の講演に引き続き、講演者に3名の地元経営者を加えた総勢7名の贅沢なクロストークが後半の彩(いろどり)を添えた。

昼食の1時間を除き、午前10時から午後5時まで7時間の長丁場に及ぶシンポジウムは、メニューがあり過ぎて細切れ感を拭えない、という問題を抱えていたことは事実であるかもしれない。しかしその問題を越えたプラスの評価もあった。以下で、シ

ンポジウムに参加した学生からの事後のレポートの一部ならびに参加者のアンケート結果から当日の印象記を紹介しておきたい。

■小中高校生の発表に対する…

[学生の印象]

①自分の地域をよくしたい、という純な思いが伝わってきた、②歳を重ねるにつれ失っていく純な気持ちの大切さを思い出させてくれた、③単に思うだけでなく、外に向かって発信していくことの大切さを小中学生から教わった、④彼らと同年代だった頃を思い出すと、発表しようとする思いすらなかっただろう、⑤大胆で押しの強い一言を述べる子供たちはまさに経営者の姿であり、見習うべき姿であり、大いに感化させられた、など。

[社会人の印象]

①小中学生の発想、意見、いずれも大いに参考になった、②純粋な目線で発表され忘れかけていた気づきを頂いた、など。

■講演、シンポジウムに対する…

[学生の印象]

①経営者のチャレンジ精神、経営に対する前進力や意気込み、②英語力を含む学力水準の低下と企業人材の劣化の指摘、③知識と智慧との違いやコトづくりの意味理解、④今後の人生を左右するほどの貴重な体験、⑤地域活性化のためのインフラとしての大学の利用価値、⑥テーマの専門性や仕事に対する情熱だけでなく、地域や社会とも企業経営は密接な関係をもつ、など。

[社会人の印象]

①多様な組織体の結びつきを意図した企画のスマートさ、②通常のセミナーでは聞くことのできない内容、③知る知識ではなく活かす知識すなわち智慧作りの方法を学んだ、④連携や協働の重要性を意識したビジネスのありかたについて新しい宿題をいただいた、⑤午前と午後のアンバランスが楽しかった、⑥資料の準備に周到な時間をかけていたことが感じられた、⑦疲れたが充実した一日だった、など。

*この他来年度に向けた貴重な提案もいただいております。その内容は、内緒です。お楽しみに!!

羽ばたく学生達の特徴

岡崎 万紀子

「英語のリスニングやスピーキングをどうやって上達させるかについて書いて」というリクエストをいただきましたので、それも踏まえて日常触れ合う学生の様子について綴りたいと思います。近頃「学生の内向き志向」、「やる気がない」などと芳しくないことが言われていますが、そのような言葉とは裏腹に素晴らしい学生にも日常のクラスの中で多く出会います。私の最近の研究領域は外国語教育における動機(motivation)と自己規制(self-regulation)に関連する分野ですが、目標を作り自分で徐々に自己規制の内容を変化させながら努力し続ける見事な学生達の例を少し御紹介します。

基礎演習Ⅱで一年次に会ったA君は苦しい英語をにこにこ笑顔でカバー、というタイプでしたが、2年次にSAでオーストラリアに行き英語の必要性を痛感したのか、その後の選択授業でまた再会。3年次には他の授業と重なって出られない授業のプリントを昼休みに研究室に来て一人で勉強しながら時折質問するという1年間を過ごした後、銀行に就職が決まったとさわやかな笑顔で報告してくれました。

理学部3年次のB君、C君はSA参加後やはり英語に触れ続けたいと思ったのか選択授業のみならず、私が担当する一年次向けのクラス全てに自主参加し半年でTOEFLのスコアが80点もアップしました。

クラス全体が素晴らしいということもありました。初級英語のクラスのうち十数人が学期中5回の読解テスト前になると昼休みに押しかけ、「試験直前で不公平になるから教えないよ」という私を尻目に勝手に自分達で予想問題を作りお互いに指名して答えさせるという「授業」を繰り広げ、最終的にクラス平均点85点という結果に。よく観察するとともに良く出来る学生は来ておらず、あまりできない学生が極端にできない学生を巻き込んでいる様子。この事象は言語教育ではcooperated-learning(協同学習)と呼ばれるひとつの型ですが、この場合は私が何か特別なしかけをしたわけではなく、「授業中にしゃべっていいよ、解らない人に教えてあげてね」と言っただけでした。

スタートのレベルが非常に低くても4年間で著しい伸びを見せることもあります。一年次に基礎英語だったDさん。英語で発表をする基礎演習Ⅱでは一行の英語を書くにも四苦八苦して時には研究室で涙も見せ

ていましたが、2年次には初級を飛ばして中級、上級と駒を進め、SA参加後、3年次に選択英語上級で再会。フリートーキングではこちらが止めるまで話し続けていました。ある時クラスがアメリカ人で埋まっているので驚くと彼女がSAで知り合った学生とのこと。突然クラスは「米国の大統領選挙予測」をテーマとするディスカッションに変更されてしまいました。その後Dさんは全学の奨学金を得てアメリカに一年間留学、日本企業を経て、現在はスウェーデンで観光関連の仕事をしておられます。

さてこうした羽ばたく学生達の共通点は何でしょう。まず第一に「ずうずうしさ」でしょう。発音を気にせず話し続ける、先生に迷惑だろうなどと考えず何度でも質問に来る、など自分の能力向上のためにはあらゆる環境を使い倒してやろうという貪欲さでしょうか。第二にこの貪欲さに起因する英語に触れる絶対量の多さです。読解力向上に精読と並行して多読が必要なよ

うに聴解力向上には多聴がどうしても必要です。ここからは話を学習法に転じてみます。ではスピーキングはどうやって鍛えるのか。この能力はリスニング訓練から副次的に発生する能力ではないかと思いま

す。6~7語のセンテンスを聴いてそれをそのまま英語で言ってみる、日本語にする、もう一度日本語から英語に戻してみるなどの通訳者が行っている訓練法も有効でしょう。(ただしこれは自動車運転中にやると危険。)こうした精密なスピーキングに加え、多聴の中で役に立ちそうな言い回しを言ってみる、要約を話してみるなども良いと思います。材料としてはインターネット上のBBC, NPR, CNN, iTunes Universityなどのサイトはスクリプトも手に入り、良質な英語教材の宝庫と言えましょう(しかも無料、スマートフォンアプリも有り)。個人的にはBBCの英国内向けラジオ放送BBC Radio4が質の高い議論や国内外ニュース分析に触れられるので気に入っています。かく言う私は学生のころどうだったかということ、細かい文法は嫌いで点も悪かったですし、会話の時間には「あー、うー」となってしまう赤くなったり青くなったりしながら“sorry”を連発し、なるべく指名されないように小さくなっているような羽ばたかない学生でした。なにしろ今と違ってずうずうしくなかったのです。

(所員/ おかざき・まきこ)

研究余滴

市民対象コンシェルジュ構想第一弾調査結果速報

【調査の経過】

2010年度、2011年度の2年にわたって、市民対象の意識調査を実施した。調査概要は、日頃利用している通信手段、利用範囲、利用頻度、それに自由回答で“日ごろ困っている問題”の提示をお願いした。2年目は設問項目を一部変更、追加した。また調査地区も平塚以外に、藤沢、茅ヶ崎、大磯、二宮、横浜と広域を対象とした。

今回の報告では2つの限定条件をおいた。1つは、自由回答に限って分析を行なう、ということである。その理由はコンシェルジュ構想に最も身近な話題やテーマが自由回答の中にあるという仮定をおいたからである。2つめは、分析対象地域を初年度と連動させるために平塚市に限定した、という点である。まず隼から始め、次第に幅を拡大していく計画である。第1回目は154サンプル、第2回目は203(うち平塚は29)サンプルであった。

【データ分析の特徴】

データ分析の対象となった回答数は、“日ごろ困っている問題”への自由記述回答文のみとなる。その回答文の中からキーワードの出現頻度を集計する形態素解析*という手法を用い、ランダムな文章の中から頻繁に現われるキーワードに着目した。次にそのキーワードにもとづき、実際の自由記述の文脈から前後関係を探り、課題の

抽出を試みた。年齢層別の分布についても解析した。

* パターン化されていない自由に記述された回答文を自然言語解析の手法によって単語や句に分割し、その発生頻度を抽出する方法。

形態素解析から得られた、出現頻度の高いトップ5は道路、情報、生活、海、ゴミであった。これを参考にしながら、回答文中の文脈から読み取れる問題の構造化構築作業に入った。用語を集約したうえで再表現しているので、形態素解析結果の用語とは必ずしも一致していない。

【出現頻度の多い順—トップ5】

1. ハイテク、ネットワーク関係の機器操作ができないことへのいらいら : 11
2. ゆっくり歩けない道路への不満(暗い、狭い、休めない、自転車が脇を走る) : 10
3. ゆったりできる休憩所、広場などの不足 : 9
4. 犬、バイクなどを含む騒音へのいらいら : 5
5. 買い物が自由にできないことへのいらだち : 5

【集合化した問題構造】

身近な暮らしの問題、仕事と地域との関連問題、地域社会の問題という3つのゾーンに問題構造を分類し、その分類に年齢層の分布を重ねてみた。

なお、以下の // の記号は、あくまでもキーワード件数を表しているもので、個別母集団の代表値にはなっていない。

	20—30歳代	40—50歳代	60—70歳代	80歳代
1. 身近な暮らしの問題	////	////	////	//
騒音、食事、介護、孤独、買い物、趣味、文化、スポーツ、ゴミ放置、訪問販売など業者とのトラブル、眼鏡なしテレビ、車の車庫入れいらいら、ロコミ情報不足、ハイテク機器のスムーズな操作の不得、個別学習会場の未整備(24時間英語TV放送)				
2. 地域社会問題		////	////	/
道路の安全、歩道の不安材料、道路の冠水、側溝の土管の未修理、公共移動交通機関の不便さ、ゴミ処理方法、公的施設での駐車場不足、公共の場や談話室の不足、公的機関の休日サービス資源利用方法(おらが村の日本一探索)、公共乗り物内のマナーの悪さ、社会性欠落、後期高齢者対策				
3. 職場と地域との隔離問題		//	//	
税申告時の学生支援、書類整理の支援、誰でも利用できる人材登録方法、景気に左右されない七夕開催				
4. その他			/	
現代社会：便利さが生活の智恵を奪う。言い方を変えれば、技術進化が人間の退化を促す。				

【回答者年齢属性】(カッコ内はパーセンテージ)

20歳代：4人(5)、30-40歳代：12人(15)、50-60歳代：51人(64)、70-80歳代：13人(16)

【若干の発見】

1. 民だけではガイドできない問題も社会基盤の部分で生じている。官や公との連動も必致であろう。
2. 母集団の年齢別分類に片寄りがあるので、この状態での地域コンシェルジュ設計に無理がある。児童、生徒たちの提案結果とも連動させ、さらなる理論の精緻化を展開する必要がある。
3. 湘南他都市との課題比較を通して、都市の違いからくる課題特性分析も必要となる。
4. 高齢化が進んでいる都市住民の課題マップとして、何らかの参考になるかもしれない。特に【集合化した問題構造】で述べた、3と4の内容は、われわれの研究課題に対して積極的な提案を含んでおり、大いなる刺激と激励をいただいた。関係者と共有したい。